



島のシンボル・男木島灯台

水仙の香る島で 小さな大冒険

周囲約5キロのこぢんまりとしたたずまいながら、迷路のような路地、急こう配の坂、山の上からの眺めなどなど、ここは冒険心をくすぐる宝島。さあ、探検に出掛けましょう。



タンク岩



島の夕焼け

原点は島の風景。 島で暮らし漁を楽しむ

佐藤 格さん

「よそに住んどっても、ふとした時に思い出すんは、やっぱり島の景色やね」という佐藤さん。男木島の生まれですが島外、県外で暮らした時期もあり、島に対する特別な思いを胸に温めています。

「昔は大勢の人が行き交って、外を歩けば誰かに会うもんやったけど、僕が島に戻った頃からだんだん少子高齢化で寂しくなって…。でも瀬戸内国際芸術祭で随分お客さんが増えたね。リピーターもおるし、こえび隊の中には島に移り住んだ人もおる。男木は島の形や雰囲気、海から見た集落の様子が、とても『島らしい』島。そういうところに惹かれるのかな」。2010年の芸術祭開催に当たっては自治会長として奔走した佐藤さん、手応えを感じている様子です。

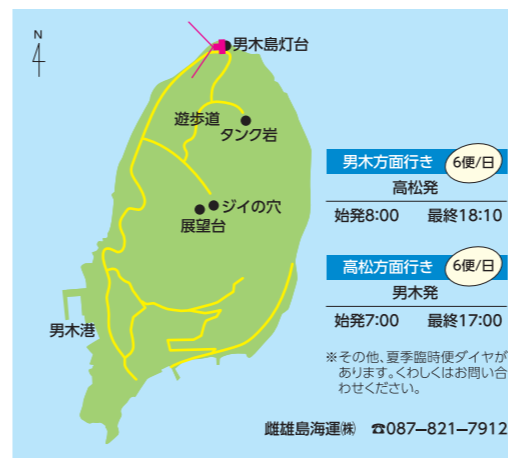
子どもの頃に海で泳ぎ、魚やサザエを採った記憶、漁船の音。そんな思い出を懐かしむ佐藤さんの今の楽しみは、初夏のサワラ漁です。「魚がかかった感触を夢に見るほど。この辺りはちょうどいい漁場で、年に一度の楽しみのために船が手放せん」と熱く語ってくれました。



佐藤さん



エリア 男木島



灯台の周辺は「男木水仙郷」。「男木水仙郷をつくる会」が2004年から植栽しており、約1万2000平方メートルに1100万株の水仙が咲き乱れる2月は、辺り一帯が甘い香りに包まれます。

ここからはしばらく水仙郷の案内板に導かれて山歩き。整備され歩きやすい道ですが、上り坂が続きます。この先にある「タンク岩」「ジイの穴」などの奇岩・奇景も男木の魅力の一つ。

家の間を縦横に走る路地は、いきなり坂道！ すぐに集落を抜け、山に沿って明るい道が続きます。左手には海が見え隠れ。途中、木の実を採っている地元の人に出会ってちよつと寄り道なども楽しみながら、灯台までは一本道、約30分の道のりです。

木々のトンネルを抜けると視界が一気に開けて、思わず歓声！ 対岸に見えるのは豊島でしょうか、行く手には灯台が頭をのぞかせています（上写真）。

高松から女木島を経由してフェリーで40分。男木島の港に近づくと、斜面に並ぶ家々がモザイクのように見えてきます。瀬戸内国際芸術祭の会場の一つであり、港のすぐそばには芸術祭をきっかけに再開した島の小学校も。にぎわいが戻りつつある島を今日はのんびり歩いて、まずは島のシンボル・男木島灯台を目指しましょう。



水仙は例年2月中旬が見頃



フェリーから島を望む

柱状節理が大きく突き出した「タンク岩」は高松市の天然記念物。ほとんどロッククライミングに近い格好で石だらけの斜面をタンク岩のところまで上ってみると、高低差のある眺めの向こうに海が広がり、なかなかの迫力。足腰に自信がある人にお勧めしたいスポットです。

ジイの穴付近から細くて急な山道を一気に下って、港と灯台を結ぶ道に戻ってきました。わずかな距離のはずなのに、なんだか大冒険をしたような気分。夕焼けに見送られて島を後にしながら、探検の余韻がいつまでも胸に残りました。